

昭和の大嘗祭と上広川村 【その1】

昭和時代の始まり

大正15年（1926年）12月25日、大正天皇（昭和2年1月19日追号）が崩御され、摂政官であった皇太子の裕仁親王が皇位を継承し、昭和と改元されます。

天皇は昭和3年11月10日に京都御所で即位礼を挙行し、同11月14日夜から15日明け方にかけて大嘗祭を執り行います。この即位礼や大嘗祭など、一連の即位の儀式は「大礼」と呼ばれます。

悠紀齋田と主基齋田

大嘗祭とは、天皇自ら執り行う一世一度の儀式で、即位後はじめて天照大神や天神地祇に新穀を供えます。

大嘗祭に供える新穀を育てる地域（齋田）は、亀卜（亀の甲羅を焼いて吉凶を判断する占い）で悠紀地方（京都以東以南）と主基地方（京都以西以北）からそれぞれ選ばれます。昭和の大嘗祭では悠紀地方に滋賀県、主基地方に福岡県が選ばれました。

具体的な場所は、県が選定します。県では独自に筑前、筑後、豊前の3地域で適地を調査し、郡市の農会も候補地

を推薦します。こうして集った94か所の候補地から15か所に絞り、さらに県知事による調査箇所を10か所とします。

10か所の候補地に

上広川村大字水原も

県知事による現地調査の結果、上広川村が残った理由として、

- ・郡内にて米質最良にして、早稲の栽培に適す
- ・候補地所有者は、資性温厚にして、地方の信用厚く、家族皆健康なり

など8項目が挙げられています。最終的に県知事が主基齋田として決定したのは、早良郡脇山村（現福岡市早良区脇山）でした。

上広川村大字水原の水田が御用藁齋田に

上広川村長永野與吉の推薦により、大字水原字中津町にある水田（所有者名省略）が、大嘗宮御造営のための御用藁齋田に選ばれたことは、ぜひとも記憶にとどめておきたいものです。



主基齋田での御田植えの様子（脇山村）

面積は本田1反8畝歩、予備田2畝歩（『昭和主基齋田記録』、福岡県）とあります。県農事試験場から「昭代」という種もみが交付され、次のように供納されました。

- 5月10日 神事、種まき
- 6月23日 神事、御田植祭
- 9月22日 神事、刈り取り、鎮守社（内田天満宮）で選別と乾燥
- 10月4日 同天満宮で供納奉告祭、自動車で県庁へ運んで藁50貫目を納入

広川町古墳資料館だより

ユネスコの世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群（大阪府堺市・羽曳野市・藤井寺市）や群馬県では、主な古墳や施設を訪れて写真を撮ると、その場所の古墳カードを集めることができるイベントを行っていました。古墳カードには古墳の写真や名称、所在地、規模、時代などが記載されており、多くの見学者に

喜ばれたそうです。

広川町古墳公園資料館では来館された皆さまへ、資料などの印刷物をお渡ししています。遠方からの来館者や社会科見学の小学生などには、石人山古墳や弘化谷古墳のポストカードやファイルも数量限定で配布しており、古墳見学の思い出として好評です。



総 合 ク ラ ブ ひ ろ か わ

- 年始のごあいさつ -

健やかに新年をお迎えのことと存じます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

「総合クラブひろかわ」は発足から7年がたち、着実に歩みを進めています。定例教室(リラクゼーションヨガ、吹矢、自彊術)や吹矢体験の支援、スポット事業(クリスマスコンサート、絵巻寿司作り、ウォーキング)など、さまざまなスポーツ・文化活動を行っています。

今年も町民相互の融和、親睦を深めるため、「健康で朗らかに連帯感にあふれ、安心して暮ら

せる町づくり」を目標に、気軽に参加できる活動を企画していきます。皆さまと一緒に健康増進や仲間づくりの輪を広げていきたいと考えていますので、ご支

援・ご協力をお願いして、新年のごあいさつといたします。

会長 稲員信幸



総合クラブひろかわ役員一同

今後のスポット事業

● 2月26日(水)
絵巻寿司(おひなさま)作り

● 3月28日(土)
ウォーキング

参加者は本紙2月号、3月号で募集します。お楽しみに!

問 総合クラブひろかわ事務局 (教育委員会事務局生涯学習係内) ☎ 0943-32-0093

広川文芸

広川短歌会



元旦に亡母の自慢の巻き鮓をほおぼる夢に今日も生かさる	姫野 洋子
奥八女のダムの際の大銀杏しずけさ集め黄金のいろに	野中 勝美
久方に吟を習ひて声も出ず心もしのに古おもふ	横山 方子
霜予報にハウスへ移すアマリス叔母の育てたいとおしき赤	蓮子 住雄
日向神の溪谷めぐれば対岸のそれぞれ異なる紅葉の色	原 千恵子
手際よく野菜きざめばひとかどの料理人めく妄想くりや	青木佳代子
空の青池に映りてなお青くもみじはさらに鮮やかとなる	高橋 和子
働き蜂が元働き蜂を運びゆく大病院の長い廊下を	野田 光介
一年のなんと短く思うこと日々の生活の朧なるさま	結束 節子
二年ぶりに会に出で来し男ふたり赤のチェックに赤のセーター	鹿田 恵
寄せ書きのひとつひとつがうれしくて色紙の上を幾度も撫づる	野中ヨシ子
アフガンの空へとつづく空のもと誰もが無念のこゑをあげをり	山下 整子
晩秋の空高くうすむらさきの皇帝ダリア泰然と咲く	中川原勝代
縁先に小町ばあちゃん柿を剥く師走間近のこもれびを背に	美座 時朗
ほほ笑みて手をふり応える両陛下親しきお顔に心打たれる	姫野 深幸